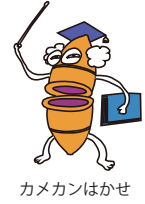


History of Kurume

発展の時 久留米の弥生時代



▲筑後川をさかのぼって弥生文化が流入した。
右写真は弥生時代前期の土器（木塚遺跡出土）

東アジアの民族大移動

約 2500 年前、中国は戦国時代であった。戦乱による人々の移動によって文化が伝播し、朝鮮半島や日本列島も新たな時代を迎えていた。秦の始皇帝が中国を統一する頃には、久留米でも渡来人が集落を作った。久留米市城島町の久保遺跡では、朝鮮半島系の土器や、朝鮮半島にしか類例がない木製の剣の柄などが出土している。半島から来た渡来人は在地の人々に新しい技術を伝え、それまで狩りや採集に頼っていた人々の生活は大幅に変化した。稲作をはじめ、木材加工、航海術、占い、暦、金属製品などがもたらされた。



▲半島にしか類例がない剣の柄（久保遺跡出土）

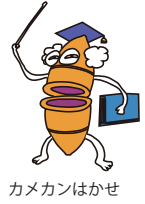


▲半島系の技術で作られた土器（久保遺跡出土）

お問い合わせ

久留米市 市民文化部 文化財保護課
TEL:0942-30-9225 FAX:0942-30-9714
Email:bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp

History of Kurume



恵み豊かな平野と水上交通、 これ以上ない好立地、久留米

縄文時代から九州各地との交流が行われていた久留米だったが、弥生時代は立地の良さが最大限に活かされた。水田稲作に最適な広大な筑紫平野と筑後川の恵み、そして半島や西日本各地との交流を背景にして、多くの拠点集落が栄えた。
『魏志倭人伝』に見える 30 余国あったとされる倭人の国のひとつが久留米にもあった可能性は高い。



▲良積（よしづみ）遺跡の人々は豊富な種類の鉄製品を持っていた。写真下方左から二つめの鉄斧は、当時鉄の生産地であった朝鮮半島の弁辰地方（現在の釜山から大邱付近）特有の製品である。

▼弥生時代後期の久留米の交易ルート



お問い合わせ

久留米市 市民文化部 文化財保護課
TEL:0942-30-9225 FAX:0942-30-9714
Email:bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp